

## IT と生産システム研究会(CASA/SME Tokyo)の活動報告

平成 25 年 1 月 31 日

委員長 松島 桂樹

### 本研究会の経緯：

本研究会は、1988 年ころより米国 SME の CASA(Computer and Automated Systems Association/Society of Manufacturing Engineers: コンピュータと自動化システム研究部会、生産技術者協会)の日本における拠点として設立され、第 1 回研究会が 1988 年 9 月 30 日に開催され、東京都立大学教授の古川先生が講演をされている（「SME 東京支部の歩み創立 30 周年記念」による）。初代委員長は豊橋科学技術大学山崎和夫先生が就任された。その後委員長が東京都立大学井越教授に引き継がれ、2008 年より現在の体制になり、継続的な活動を実施してきた。

### 研究内容：

米国 CASA から定期的に発刊される Blue Book Series から、有益な文献を抽出して、メンバーの輪読による勉強会を実施してきた。2005 年ごろより、CASA の組織再編によって発刊停止となったため、主に、SME 会員向けの配布されている Manufacturing Engineering 誌およびその特集号から興味深い記事、論文を抽出し、翻訳するという輪読、および企業訪問を中心とする研究会を実施してきた。

日本の製造業では、もう米国に学ぶものはないとの、国内の“思い上がり”の風潮も影響してか、今、国内で米国のモノづくりの最新状況をフォローしている数少ない研究会と言えるだろう。

### 研究会で学習した文献（抜粋）

#### Blue Book Series

- CAD/CAM Interoperability
- Virtual Enterprise Integration: Creating a Sustainable Manufacturing Life Cycle
- Trends in Computer and Automated System
- Trends in Manufacturing: Knowledge Management
- New Generation Manufacturing
- Connected Value Stream Taxonomy 他

#### Manufacturing Engineering 特集号

- Aerospace & Defense Manufacturing 2008
- Motorized Vehicle Manufacturing 2009-2010
- Energy Manufacturing 2011

### 訪問企業

- ・新潟地区視察ツアー、遠藤工業、日本精機、燕三条地区
- ・富山、タニハタ
- ・東芝における EC 調達システム
- ・東芝機械沼津工場
- ・東成エレクトロビーム
- ・中国視察、東芝大連有限公司、自動車デザイン ZUKI 社、青島ビール

## 成果投稿、出版物

- ・「製造業のナレッジマネジメント」化学装置 2002-5月号, 工業調査会.
- ・ Enterprise Integration in Japan, CASA/SME Blue Book Series, 2004.  
日本の製造業の取り組み事例（デンソー、東芝機械、森精機、インクス、東成エレクトロビーム、新潟燕三条地域など）を海外に発信した（添付参照）。
- ・日本の製造業におけるエンタープライズインテグレーション」（共著）『機械と工具』2004.12-2005.3号, 工業調査会.

## 最近の研究会の活動状況

### 2012年

- 2月22日、輪読会
- 4月19日、輪読会
- 6月21日、輪読会、
- 8月3日、富山タニハタ見学会、
- 10月30日、輪読会
- 12月18日、研究方向の検討

### 2013年

- 1月22日（輪読会）

内容：

- ・ Energy Manufacturing 2011 の輪読と討議
- ・ 東アフリカ視察報告
- ・ ロシアウクライナ視察報告
- ・ 日本のモノづくりの動向
- ・ ISO14000 の動向

## 次年度の活動計画

輪読に加え、新たな研究テーマとして、「**Global化したものづくりにおける中小製造業のあり方研究**」を集中的に検討する。大手製造業が、拡大する BOP 市場と、ローコスト化をめざして海外進出を進めているため、中小製造業は、大手製造業から受注する仕事の量が激減している。生き残りへの競争力確保のために、中小製造業は、何をすればよいのかについて議論する。その成果を、SME 会員を対象としたセミナーを開催し報告する。

新たな活動を踏まえ、当分野に関心をお持ちの SME 会員の参加を募りたい。